

## 活動報告

・子どもたちの  
安全安心確保へ  
「登校時の見守り」



・防災士としての  
知識を活用  
「防災・減災対策の推進」



・誰一人取り残さない  
社会の実現へ  
「障害者とのふれあい」



・自然を生かし、地域の魅力向上へ  
「荒島岳・カドハラ桜坂の植樹、管理」

✂ キーワード

## 林よりかずさんを応援します！

### 林よりかず 後援会申込書

ご紹介者	お名前	ふりがな	お電話
	ご住所	〒 -	

### ご友人、お知り合いの紹介をお願いします。

1	お名前	ふりがな	お電話
	ご住所	〒 -	

2	お名前	ふりがな	お電話
	ご住所	〒 -	

※お寄せいただいた名簿は、後援会活動以外には利用いたしません。

## プロフィール

昭和52年(1977年)大野市春日に生まれる。先祖は昭和40年9月のいわゆる「40・9風水害」により壊滅的な水害被害を受けて廃村となった旧西谷村中島の出身であり、屋号は「又六(またろく)」。

いなやま保育園、有終南小学校、開成中学校、大野高等学校と地元大野市で過ごし、大学進学を機に上京。最終学歴は中央大学経済学部卒。

大学進学中に父を亡くしたこともあり、地元に戻ることを決意。平成12年(2000年)大野市役所に入る。市役所では、高齢者福祉(介護保険)、広報紙発行、財政、産業政策・商業振興などを担当。途中、2年間の行政事務研修として経済産業省への派遣や1年間の地元まちづくり会社への研修派遣経験のほか、内閣府から招へいた副市長の政策秘書としての経験(1年9カ月)を持つ。

地元の活動にも積極的に参加。町内の自主防災組織の副会長として自ら「防災士」の資格を取得、地域防災力の強化に力を注ぐほか、大野地区第一分団体育協会に20年以上所属し、スポーツ・地域振興にも取り組んでいる。

子どもの成長に合わせて大野市立保護者会連合会会長、有終南小学校PTA会長なども経験したほか、現在は大野市内低学年の学童野球チーム「オール大野ジュニア」の設立に関わり、ゼネラルマネージャー(GM)として運営に携わっている。

現職は大野市議会議員(平成31年2月～)のほか、大野市軟式野球連盟会長(令和3年4月～)、大野市身体障害者連合会会長(令和3年5月～)、大野市身体障害者肢体協会会長(令和2年4月～)。

林よりかず  
公式サイト | <https://hayashi-yorikazu.jp>  
Instagram・Facebook・Twitterやっています



### 林よりかず後援会事務所

〒912-0053 大野市春日二丁目5-13

TEL・FAX: 0779-65-0276

「やっぱり、大野がいい」

真心ある政治

誇りある大野市を取り戻す

林よりかず

後援会討議資料  
「ささるのよりどころ通信」

# 決意表明

皆さん、こんにちは。大野市議会議員の林よりかずです。

「次世代につなぐ誇れる大野市づくり」に向けて、「人の育成」「時代の変化への対応」「産業振興」「財政健全化」に力を注いでいくとお約束をし、皆さまの負託を受けて4年間、走り続けてきました。

石山市政がスタートして4年半が経過しましたが、市民や事業者の皆さんから「将来が不安だ」「大野市の方向性がみえない」との声を多く聞きます。二元代表制の一翼を担う議会の一員として、皆さんの声を市政へ反映する政策提言を行っておりますが、行政(市役所)が市民、事業者から信頼される組織でなければ協力し合う体制は築けません。

人口が減少し続けている大野市において何もしないこと(現状維持)は衰退を意味します。時代は刻々と変化しており、変化を怖がっては将来に対する不安も解消できません。明確な方向性を示して、心を通わせ、今こそ市民・事業者と行政の協働によるまちづくりを進めていく必要があります。

林よりかずは「真心ある政治」を信条に、皆さまの「心のよりどころ」として活動し続けます。



## すべては子どもたちのために!力を注ぐ4つの柱



大野市、福井県、日本の将来を担う子どもたち。私が意識して活動している軸は、常に「子どもたちのために」です。その子どもたちに何を残すのか、将来を描いて、今、何をすべきか“バックキャストिंग”の発想で、誇れる大野市づくりに力を注いでまいります。

### やさしく受け入れる地域づくり

大野市における令和3年の出生数は過去最少の152人。人口減少が加速しており、人口は3万人を割り込みました(令和4年10月福井県の推計人口における大野市の人口は2万9997人と公表)。高齢化も進展しており、企業の働き手であり地域の担い手である人材の急減が予測されています。このまま人口が減り続けると、公共交通や買い物といった社会サービスの維持が難しくなりますので、一人でも多くの定住者(人口)を増やす取り組みが必要です。

私はUターン促進や移住者をやさしく受け入れる地域づくりに重点を置き、若い世代の人材確保に取り組むとともに、企業や自治体のDX(デジタルの力を活用した仕組みの変革)促進に力を注ぎます。

### 自然との共生、民間投資を推進

将来的な定住につなげるため、大野市と関係を持つ人を増やすことも重要です。中部縦貫自動車道が令和5年春には勝原ICまで、令和5年秋には九頭竜ICまで、令和8年春には岐阜県

までつながります。本市の農林業や商工業は、自然との共生を大切にしたいホンモノの良さがありますので、この道路開通のチャンスを活かして訪れた人が「何度でも行きたい、あのの人に会いたい、あの商品が欲しい」と思ってもらえる素材を活かしたメイドイン大野の商品開発への支援、商品・サービスの付加価値化と人材育成の促進に力を注ぎます。

併せて、福井県の東の玄関口となる立地特性を活かした企業誘致や中心市街地への居住促進による地価下落の抑制など、民間投資の促進に力を注ぎます。

### 信頼される市役所・健全財政

大野市の財政構造は大変厳しい状況が続いています。毎年、180億円以上の予算が使われていますが、市税収入は増えず、国からの地方交付税や交付金頼みの収入構造であり、支出は義務的経費の割合が高く硬直化が進んでいます。変化の激しい時代に応える予算を編成するには、財政健全化に向けた行財政改革が必要です。

さまざまな行財政改革がありますが、まず

ピード感を持った対応が必要なのは公共施設の再編です。同じような目的を持った施設、民間で運営が可能な施設は統廃合して維持管理費を減らす工夫が求められます。水道など生活に欠かせない重要なインフラ資産は長寿命化を見据えた計画的な更新を、公園などは事業者の稼ぐ力につながる利活用促進に力を注ぎます。併せて、積み立てられた基金(貯金)に頼らない予算編成を目指して無駄の排除に取り組みます。

### 人のつながり、自信と誇り

大野市を支え、魅力ある地域を創るのは人、大野人(おおのびと)です。子育て世代の将来への不安を取り除くことは子どもたちの健やかな成長につながります。大野を愛するすべての人の協力を得ながら、教育、文化、スポーツ環境や福祉、医療体制の充実により、大人も子どもも心豊かに生きていける地域づくり、頻発する災害に備えた助け合い(共助)によるふるさとづくりに力を注ぎ、市民が住み続けることに自信と誇りを持てる大野市を皆さんと一緒に創ってまいります。

# いいな、こんな大野市

- **地域とともにある保育所・認定こども園、学校づくり**  
(有機栽培等の作物提供による地産地消給食、芝生化されたグラウンドでラジオ体操などを楽しむ地域住民や裸足で走り回る子どもたちの笑顔あふれる日常 など)
- **週末の余暇を楽しみに人々が触れ合える場づくり**  
(六間通りの拡幅された歩道や公園スペースを活用したキッチンカー&軽トラ野菜市 など)
- **誰もが誰かのアライ(ally)** (不安や迷いに寄り添える仲間・共感者)となり、自分らしく生きていける風土づくり

3	お名前	ふりがな	お電話
	ご住所	〒 -	

4	お名前	ふりがな	お電話
	ご住所	〒 -	

5	お名前	ふりがな	お電話
	ご住所	〒 -	

【ご意見をお聞かせください!】

.....

.....

.....

.....

.....